



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 佐々木 力
編集者 及川 孝
TEL 019-622-5021
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2017.5.10 第1505号

拡大キャッチコピー
「新しい仲間づくりを 皆の力で」
「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」

青森駅前公園 1,000人が集結

核燃施設・原子力発電所の廃止を

「4・9反核の日」全国集会

青森県が「核燃料サイクル施設」の受け入れを決めたことに抗議する「4・9反核の日」全国集会も第32回を迎え、今年も4月8日、春まだ浅い青森市の青森駅前公園で開催された。集会には福島第1原発事故の被害に苦しむ福島県をはじめ、柏崎刈羽原発のある新潟県や高速増殖炉「もんじゅ」の福井県など原子力関連施設をかかえた全国各地や青森県内各地から約1,000人が参加し、六ヶ所村の核燃料サイクル施設廃止や国の原子力政策転換、全国の原子力発電所の廃止を求めて大きく声をあげた。

集会・デモで全国の仲間が訴え

地区から多くの組合員が参加した。日音協のオープニングセレモニーに続き14時から始まった全国集会では、まず核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団の浅石代表が開会の挨拶、続いて原水禁国民会議議本代表と青森県反核実行委員会の三上委員長が主催者挨拶に立ち、基調報告は国労議員団の斎藤憲雄青森市議会議長が青森県反核実行委員会事務局長の立場で行った。



＝集会を終りデモで訴えた参加者＝

斎藤事務局局長は「北村青森県知事が県議会全員協議会において核燃料サイクル3施設の受け入れを表明してから32年を迎えた。当初の計画通りに事業が進んでいるものはひとつもなく、その原因は事業者の日本原燃の技術力不足と支えている電力会社の経営悪化にある。これにより、青森県が核のゴミ捨て場とされる

危険性が大幅に高まった。六ヶ所再処理工場は、高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉が決まり不要な施設だが「プルサーマル発電でウラン資源を有効利用する」との詭弁で存続しようとしている。しかし、それには多額の費用が掛かる。昨年4月、電力小売りの完全自由化がスタートしたが、環境にやさしい電力会社を選んでも再処理工場や高レベル放射性廃棄物の処理費用を負担せられる。これは昨年10月、使用済燃料再処理機構が設立され、その費用負担を国民に求めることにしたからで、

この後、福井・新潟・福島の各地からの報告がおこなわれ、全国の原発を廃止に追い込む集会アピールが採択され、デモ行進に入った。全くくめど立たない福島第1原発の事故処理やもんじゅの廃炉に、これからも莫大な費用が予想され国民負担は増え続けるばかりだ。原子力政策の転換とすべての原発の廃止を目指し我々も最後まで闘い抜こう。



「交流会には25人が参加」

若手社員との交流や 職場実態で報告多数

盛岡地区協6分会交流会

4月15日に恒例の盛岡地区協6分会交流会が25人の仲間が参加し国労会館で開催されました。

初めに佐々木支部委員長からの「昨年は盛岡支部として悲願であった新規採用者の国労加入を、盛岡地区協内で勝ち取ることが出来ました。今日まで地本・支部・分会一体となった運動を作り上げ、組織拡大につながる運動を構築してきました。第二の新規採用者の獲得に向け今後も取り組みの継続をお願いします」とのメッセージを受け、各分会からの報告で交流しました。

各分会からは「昨年の新採加入者の細川君は若者1人で頑張っているが、私達も新規採用者の仲間作りに取り組み組織拡大へとなげたい」「エ

ルギー組合員の働く場を確保してほしい」「新採者・グリーンスタッフに国労グッズを渡した。受け取ってくれた」「エルギー組合員の受け入れ口が他の職場より多くあるが、組合員との交流がなかなか出来ないでいる」「新採者への取り組みとして昨年はポスターだったが、今年は手紙と国労グッズを渡す取り組みをすす

ました。

「若手社員は業務検討などで出勤時間が多くなり負担になっていく」「役員が出向なので新採者と会う機会がほとんど無く、声掛けや国労グッズを渡すことが出来ないでいる」「出向先で若手プロパー社員を飲み会に誘って職場で困っていることなど無いと話している」「職場では、JR社員以外は会社に入っていない」「最近若手社員を対象に国鉄改革の勉強会をやっているようだ」「職場の高齢化が進み67歳、68歳の人も働いている」「若手社員が入ってきていても賃金など劣悪な職場環境のため辞めていく人が多い」との報告がありました。

各職場から「若手社員との交流を深め意見を聞いていく中で、組織拡大につながるように運動を継続していくこと」「組合員の高齢化に伴いエルギー職場を確保すること」など多くの共通する問題点が出され、懇親会ではさらに活発な意見交換と交流を深めました。

北上地区協 景品?高スコア目指し 23人でボウリング大会



◎高スコア目指し皆全力◎

4月8日、北上ヤングボウルにおいて春の地区協レクレーション、ボウリング大会が組合員、家族も含めた23人の参加で開催されました。工藤慎一常任委員長の始球式(本ゲームのためにとっておけばいいのになぜかストライク)後、2ゲームトータルの競技開始。一投ごとにレインを越えての歓声が上がるなど、楽しい時間を過ごしました。

賞品も多数準備して、参加賞以外では約半数の人が商品を得たし、最後も笑顔で記

念写真に収まり、解散となりました。今回は残念ながら来賓者の都合が付かず、参加いただくことができませんでしたが、秋はグラウンドゴルフを予定しているため、退職者の方方も含め賑やかに開催したいと思っています。

第3位までの成績次の通り。スコアは省略します。 優勝 千田正志(工務) 第2位 小原和彦(工務) 第3位 菊地明弘(駅連合)

報告 書記長 折戸 俊幸

当面の主な日程
▽5月13日(盛岡) いいね!日本国憲法5・13 若手県民集会
▽5月16日(盛岡) 第8回地方本部執行委員会
▽5月19日(盛岡)

戦争法反対!共謀罪阻止! 5・19盛岡夕方デモ
▽5月20日(盛岡) 第1回支部・父代表者会議
▽5月27日(青森) 第3回地方本部機関紙交流会・青森支部側
▽6月4・5日(大阪)

第11回本部組織拡大経験交流会
▽6月8日(安比) 第22回地方本部ゴルフ大会
▽6月17日(盛岡) 第3回地方本部機関紙交流会・盛岡支部側

近所のゴミステーションで年配の女性から声をかけられた。「こんなに分別するのですか。どうやら資源ごみの分別には少々疎いらしい。」「資源ごみはリサイクルされて生まれ変わるので、よーなどと得意げに話しても、この資源が何に生まれ変わるのかよく分かっていない。調べてみるとペットボトルは卵パックなどのプラ製品やYシャツ、そして再びペットボトルへと約85%がリサイクルされるらしい。今後限りある資源を有効に使うために、ごみを減らし環境リサイクルに心掛けたい。」「1985年4月9日、青森県知事が核燃料サイクル施設の受け入れを表明し六ヶ所再処理工場が建設された。これにより使用済み核燃料はリサイクルされ原発へ戻すという「夢の計画」であったが全く機能していない。昨年12月にはプルニウム抽出の柱である福井県の高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉が決定し、核燃サイクルの破綻は明らかとなった。しかし政府は核燃サイクル事業の継続を決め「もんじゅ」に代わる新たな高速炉を開発しようとしている。「やめる」と言えないのは、核の「ごみ」がリサイクルできず増え続けていくことを認めることとなるためか。12兆円以上がつぎ込まれて失敗に終わった核燃サイクル事業である。このままではさらに国民負担を広げる結果になるだろう。青森市で開催された「4・9反核燃の日」全国集会は今年で32回目を迎える。継続して集会を開催している実行委員会に敬意を表するとともに、青森県が抱える原発や核燃施設・中間貯蔵施設の廃止を求め広範に訴え続けていくことが必要だ。(孝)

◆第88回メーデー◆

国労の旗掲げ各地の仲間と参加



▼盛岡の組合員も元気にデモ行進



＝岩手県中央メーデー・盛岡城跡公園＝



▼今年は花巻市民会館で行われた花巻北上和賀メーデー(15人参加)



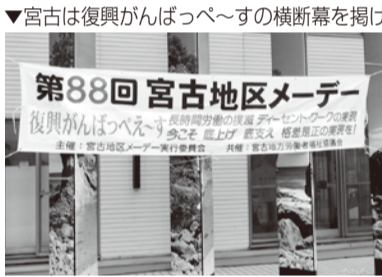
▲ゼットイ反対をゼッケンとこれで訴えた・盛岡



▼阿部一男花巻市議会議員も一緒に記念のスナップ



▲今年は公園で飲む前に50人がしゃきつとして記念撮影・盛岡



▼宮古は復興がんばっぺ～すの横断幕を掲げ



▲国労も旗を掲げ参加・一関(13人参加)



▼退職者の会の皆さんも参加してくれました交流会・宮古地区協(20人参加)



▲菅原高明実行委員会事務局次長(国労)が「長期労働時間は正」の特別決議を提案



▼八戸も独自メーデーで集会后、交流会へ21人参加



▲青森地区独自メーデー集会后、交流会へ103人の参加で開催し団結花見会へ・青森合浦公園



4月1日

入社式宣伝行動・委員会・学習会と青年部行動を展開

4月1日、大宮市・ソニックシティ前で行われた「入社式宣伝行動」をはじめとした各種行動に参加し、初めて東日本本部青年部の活動に参加することができました。今回の活動では青年部員全員と



◇意見交流する青年部員◇

当日は寒空の下での行動となりましたが、仲間達の活動に対する真剣な姿勢が一番印象深かったです。こうした姿勢が新入社員にも残る、1人でも多くの新入社員が国労へ加入してくれば国労もより一層活気づいていくと感じました。このような活動を続けていくことが組織拡大へも繋がると思っています。

午前中の活動に続き、午後は「第26回

まではいかないものの、他地の青年部員と活動を共にすることができ大変嬉しく感じています。

盛岡地本の現状は若い人が少なく正直心細く感じているところもあります。私自身これまで盛岡での活動にしか参加したことがなく本場に他地本に若い組合員がいるの不安に感じていることも正直ありましたが、しっかりと考えたうえで、そして各職場の現状の問題を親身になって考えてくれる若い組合員が大勢

盛岡地本の現状は若い人が少なく正直心細く感じているところもあります。私自身これまで盛岡での活動にしか参加したことがなく本場に他地本に若い組合員がいるの不安に感じていることも正直ありましたが、しっかりと考えたうえで、そして各職場の現状の問題を親身になって考えてくれる若い組合員が大勢

「東北協議会女性組合員交流会」が4月23日・24日に秋田県角館市で開催され3地本から8人が参加しました。

「東北協議会女性組合員交流会」が4月23日・24日に秋田県角館市で開催され3地本から8人が参加しました。

「自分1人ではない」「心のつながり」強く女性組合員交流会

「自分1人ではない」「心のつながり」強く女性組合員交流会

「自分1人ではない」「心のつながり」強く女性組合員交流会

「がん」の保障 <<新生きるためのがん保険Days>>
Aプラン 入院給付金日額10,000円の場合
保険期間:終身(抗がん剤治療特約は10年更新) 契約年齢:0歳~満85歳
初めて診断確定されたとき
がんの場合 一時金として 100万円
診断給付金
上皮内新生物の場合 一時金として 10万円
入院したとき
入院給付金 1日につき 10,000円
通院したとき
通院給付金 1日につき 10,000円
手術したとき
手術治療給付金 1回につき 20万円
放射線治療を受けたとき
放射線治療給付金 1回につき 20万円
抗がん剤治療を受けたとき
治療を受けた月ごと 10万円(給付倍率2倍)
乳がん・前立腺がんのホルモン療法するとき 5万円(給付倍率1倍)
※Aプランの場合、抗がん剤治療給付金はご希望により取り外すことができます。
がん専門相談サービス プレミアサポート
詳しくは、「契約概要」等をご覧ください。